

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回吉川市老人保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
開 催 日 時	平成17年9月30日(金) 午後4時20分から 午後5時30分まで
開 催 場 所	吉川市旭地区センター203・204会議室
出席委員(者)氏名	中村信委員長、櫻田淳副委員長、宮崎利彦委員、根岸幸徳委員、仲村伊佐子委員、日高毅委員、平嶺太委員、兵頭利明委員、村上篤史委員、戸張新吉委員
欠席委員(者)氏名	森田修委員
担当課職員職氏名	いきいき推進課長 山崎成一 健康増進課長 小澤廣 いきいき推進課課長補佐 榎本ノリ子 健康増進課課長補佐 和田秀代 いきいき推進課介護給付係長 森保美 いきいき推進課高齢福祉係長 岡田誠 いきいき推進課高齢福祉係主任 青柳乃り恵 いきいき推進課介護給付係主任 細田晃 いきいき推進課介護認定係主任 飯田智子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 地域フォーラムの中間報告について(公開) 2 高齢者保健福祉の基本的方針と体系について(公開) 3 事業量算出の基本的な考え方について(公開) 4 その他(公開)
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	1人
会議資料の名称	1 地域フォーラムの中間報告について 2 高齢者保健福祉の基本的方針と体系について 3 事業量算出の基本的な考え方について
会議録の作成方法	録音機器を使用した全文記録 録音機器を使用した要点記録 要点記録

会議録確認指定者	根岸幸徳委員 仲村伊佐子委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

司会	<p>開会</p> <p>会議は、定足数の過半数に達しており、有効に成立している。議事進行について委員長に依頼する。</p>
中村委員長	<p>議事録署名委員を根岸幸徳委員、仲村伊佐子委員にお願いしたい。</p> <p>(1) 地域フォーラムの中間報告について</p> <p>事務局から説明を願いたい。</p>
事務局	<p>資料2-1をごらんいただきたい。冒頭に説明した地域フォーラム結果報告の中から、特に、高齢者に着目して結果をまとめている。地域フォーラムについては、市民の意見として参考にしながら、今後の施策検討に反映させていきたいと考えている。</p>
中村委員長	<p>この資料は1回と2回の結果なのか。</p>
事務局	<p>1回目の報告である。</p>
櫻田副委員長	<p>8つの柱が将来像として出されているが、この出し方は、最初に柱ありきだったのか、意見を集約した結果だったのかどうか。</p>
事務局	<p>後者である。</p>
櫻田副委員長	<p>ということは、将来像の柱が施策に具体的に降りていくのであれば、施策の柱としては、もっと整理していく必要があるのではないか。8つは、具体的に計画の柱にどのように反映されるのか。</p>
事務局	<p>今回報告した資料が1回目のものであるということもあって、今後、柱は整理していきたい。</p>
兵頭委員	<p>アンケートはどうだったか。アンケートがあるのであれば、見せていただきたい。</p>
事務局	<p>昨年度実施したアンケート結果があるので、それらを踏まえて具体的に検討を進めていきたい。</p>
根岸委員	<p>将来像の柱は、非常に抽象的である。その後、フォーラムの柱をみると、とても具体的でわかるが個人のニーズになっている。出席された人が高齢者が多かったこともあって、高齢の方のこうありたい、という意見が多かったのではないかと思う。計画の中に、個別のニーズに基づいた8つの柱を基本的な理念とするのは、検討が必要ではないか。</p>
事務局	<p>あくまでもこれはフォーラム1回目の結果である。1回目につき、2回目では、実現方策などを検討しており、個別のニーズから、徐々に地域のニーズにどう対応するかという答えが見えてきている。</p> <p>フォーラムでは、市民の意見を尊重しようということで実施しているが、合同会議でもあったようにそのまま取り込んでいくことはできない。いずれにしても、これからどう活かしていくかは、これからということだ</p>

宮崎委員	<p>ある。</p> <p>これは集まってもらった人に、意見をだしてもらって、項目を整理したものという理解でよいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p> <p>(2) 高齢者保健福祉の基本的方針と体系について</p>
中村委員長	<p>事務局から説明を願いたい。</p>
事務局	<p>計画の基本理念については、1と2は、前回計画からひきつぎ、3を新たに加えた。高齢者の数が増加することが想定されており、その中で、高齢者も参加して、活力ある高齢社会をつくっていく必要があるということで、追加した。</p> <p>次に、基本方針としては、4点をあげた。施策の体系については、方針の4つの柱をもとに、立てている。</p> <p>元気高齢者の社会参画の充実について、この内容の意図について説明したい。生活習慣病での要医療、要指導の人が多くいる。要介護状態になる原因として、糖尿病や脳卒中があるため、生活習慣病の予防を強化していきたい。医療にかかっている人については、その後のコントロールが必要になる。その上で、体の状態を知ったり、指導をすることも必要になる。</p> <p>社会参画の推進としては、支え合いを進めるためのサポート体制の整備。また、高齢者が生き甲斐をもち、社会参加を図るために、就労機会の充実を図る。介護予防について。生活援助を必要にする人が増えてきているため、日常生活の支援を充実させていく。要介護状態に陥ることを防止していく。</p> <p>在宅支援の充実での生活機能障害の予防としては、自宅での生活が滞りなくできることの予防を目的としている。そのために、閉じこもりの予防、転倒予防などを想定している。</p> <p>介護環境の整備の人権擁護の推進について。高齢者の人権擁護の推進が今後ますます必要になっており、虐待防止へ取り組み、認知症への理解促進などを行う。</p> <p>介護保険事業の円滑な運営について。ここは介護保険サービスについて次回以降、具体的にお示しをしていく。</p> <p>在宅介護環境の充実については、介護保険制度を補完するため、市の支援を独自に設けているが、その充実、身近な地域での施策の実施などを行っていく。次に、誰にも住みやすいまちづくりについては、資料のとおり。</p> <p>「計画の円滑な推進のために」として、相談体制の整備を位置づけた。</p>
中村委員長	<p>ここまでの説明について、意見を出していただきたい。</p>
櫻田副委員長	<p>基本理念の3つについて。たとえば、喜びを感じ、とあるが、喜びは、健康や安心に含まれるのではないか。もうすこし、言葉を大事にして、整理してはどうか。3では、高齢社会を支え合うというよりは、高齢者の社会参加により、多様な世代間、立場間の支え合いの仕組みが豊かになる、というイメージではないか。</p>
事務局	<p>喜びを感じ、という一言をいれた理由は、これからいわゆる団塊の世代が高齢者の仲間入りをはじめることから「生きがい」の重要性を表現したいという主旨で、この言葉を加えた。また3つめの「何に参加するのか」がわかりにくいというご意見については、他の方々の意見もふまえて、再</p>

	<p>検討をしたい。</p>
兵頭委員	<p>基本理念の3つめは、とてもよいものが入ったと思う。元気な高齢者がこれから貢献していくシステムがとても重要であるから。しかし、基本方針になるとそれが活かされていないように見える。元気な高齢者が社会参画するのは一つ。それを実現するためには、健康が必要なので、介護予防がくる。それでも、介護が必要になったらどうするか、という話があるだろう。</p>
櫻田副委員長	<p>吉川小学校の通所施設を見せていただくと、高齢者に対する子どもの援助があるが、むしろ、高齢者と子どもがいっしょに学校行事に参加することによって、子どもにいろいろな文化を伝達しているので、そうした積極的な高齢者が貢献している姿を文章の表現の中に入れていただきたい。</p>
事務局	<p>吉川小学校の事例もふまえて、対応したい。</p>
中村委員長	<p>血管性の痴呆にならなければ、介護状態になる人はとても少なくなる。また、歯の健康維持、予防は、高齢者の健康、介護予防にとって重要な部分である。</p>
櫻田副委員長	<p>基本方針の立て方として、今は、疾病の状態から膨らませるのか、健康から介護へと進むのか、結構重要なことになる。</p> <p>(3) 事業量算出の基本的な考え方について</p>
中村委員長	<p>事務局から説明を願いたい。</p>
事務局	<p>今回は推計の手法と考え方をお示しするところまでなので、ご了解いただきたい。また、今回の事業量推計については、介護保険事業に関する考え方となっているのでご理解いただきたい。今後、介護サービスの量や価格を種類ごとに出していくことが最終的な目的となっている。そのためには、要介護者や高齢者の数などのデータを重ねていくことで計算される。時間も少ないので、特に手法のポイントについて、説明をしたい。</p> <p>まず、これまでは、市全域で事業量を推計していたが、今回は、日常生活圏域を設定して、事業量を推計することになる。これは、高齢者が身近な地域で住み続けていくために、日常生活圏域ごとに拠点を整備することが必要。次回では、圏域ごとに、施設や事業量を検討していただくことになる。</p> <p>次に、介護予防として、地域支援事業と新予防給付が創設された。認定者の数や利用者数をこれから見込んでいくが、地域支援事業と新予防給付の実施による効果を見込んで数字を設定していく。また介護予防を実施する時期についても検討していくことになる。</p> <p>最後のポイントとして、施設サービスの重点化という目標が打ち出されている。施設には、より重度の方に入っていただくということで、重度の方の割合を施設利用者の70%を目標としている。</p> <p>実際には、次回以降、推計した数字を審議していただきたい。</p>
中村委員長	<p>質問があればお願いしたい。</p>
平嶺委員	<p>いくつかお聞きしたい。日常生活圏の設定について、その目安はどうか。</p>
事務局	<p>今回は考え方をお示ししただけなので、吉川市として、圏域をどのよう</p>

	に考えるかについては、次回以降、お示ししたい。
平嶺委員	この間、いろいろ調べたが、ここに出ているような考え方は、すでに春の課長会議ででている。もうすこしスピード感をもってできないのか。
事務局	まず、骨格を議論していくことが必要だと考えている。
平嶺委員	37%については、維持するつもりなのか。
事務局	そのように考えている。
平嶺委員	実際に37%を固定すると、サービス量を抑えなければならないのではないか。また独自性は出しにくいのではないか。もっと、37%のままで行くのかどうかを議論していく必要があるのではないか。
事務局	数字について提示しているが、基本理念を段階に踏んだ上で出すべきものであり、その点をご理解をいただきたい。37%についても、今後の算出の中で検討していきたい。あくまでも段階を踏むということをご理解いただきたい。
平嶺委員	今後の方針として37%以下という設定をされてしまうと、1人歩きするので、検討していただきたい。また、説明を多課にわたってわかりにくいので、1人でやってほしい。
中村委員長	37%の数値については、吉川市として必要な数字を検討していく必要がある。
事務局	37%については、たたき台としてお示ししたものであり、今後検討していく。
村上委員	事務局のたたきと理解しているが。その中でも、何を委員として中心的に検討していく必要があるのか、事務局として提示していただくとよい。それが37%なのかどうかはわかりにくい。そのあたり、今後検討していただきたい。
事務局	次回、事業量の検討に入っていくので、その中で、具体的に検討していただくことが明確になっていくかと思う。
兵頭委員	1人で説明ができればそれにこしたことはないが、それぞれの専門や役割分担もあると思うので、そこは、事務局にお任せするのでよいのではないか。
中村委員長	同感である。事務局へお任せするということでよいか。
	(4)その他
中村委員長	事務局から説明を願いたい。
事務局	次回日程(案)として10月28日 午後3時を予定したい。
中村委員長	今回は10月28日午後3時開催でお願いしたい。以上で本日の会議を終了した。各委員のご協力に感謝したい。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成17年10月20日

署名委員 根岸幸徳

署名委員 仲村伊佐子